

CHIGASAKI 市立病院だより

第43号

平成12年8月発行

発行／茅ヶ崎市立病院

茅ヶ崎市本村 5-15-1 TEL52-1111

身近な病気シリーズ 4

小渕前総理とMRA



放射線科 天羽 健

先日、小渕前総理が倒れたとき、順天堂医院からの記者会見では次のような発表がありました。小渕総理は入院後、直ちにMRI及びMRAが行われ、脳梗塞と診断されたということでした。それでは、このMRI、MRAとは一体なんなのでしょうか。

放射線科で取り扱う各種画像診断検査の中にMR検査というものがあります。これは、MR装置という図1のようなおおがかりな機械を用いて行われるもので、この装置は当院では1台設置されています。この装置を使って得られる画像は様々なものがありますが、この中で最も普通に行われている身体の断面像を作成することがMRIと呼ばれています。図2のような画像が代表的なもので、これは脳の横断像です。身体の横断像というとCT検査でも似たような画像が得られますが、両者のいちばんの違いとして、CT検査はエックス線を使用するため放射線被曝があるのに対して、MR検査は電磁波を使って行われるため放射線被曝がないということがあげられます。



図1

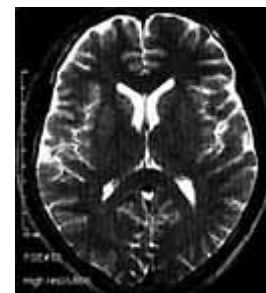


図2

このMRのうち、血管の部分だけ強調したものを何枚も重ね合わせてコンピュータ合成

したものがMRA（MR血管造影）と呼ばれています。図3は脳血管のMRAの代表的画像です。通常の血管造影検査は、身体の各部分の血管にカテーテルと呼ばれる細いチューブを挿入し、そこから造影剤を注入し、エックス線を用いた装置によって行われますが、MRIは血管に針を刺されたり、造影剤を注入されたりせず、また放射線被曝もなく撮像されます（追記参照）。MR装置の中で横になってじっとしているだけで検査は終了します。



図3

脳血管のMRAは前記のような脳梗塞の診断にも用いられますが、もっと重要な役割として、脳動脈瘤発見の予備検査という意義があります。ほとんどの脳動脈瘤には症状がなく、これが破裂して頭蓋内に出血が広がるというたいへんな事態を引き起こしてから発見されることが多いのが実情です。よってこの症状を起こす動脈瘤が破裂する前にMRAでこれを見つけ、手術などの処置が行われることが理想と考えられます。これを目的として近年、多くの病院で脳ドックと称してMRAが行われています。

当院では、今年10月の新病院に新しいMR装置が導入され、より新鮮で精細なMR画像を提供できることになっていますが、通常の臨床使用だけで手一杯になることが予想され、脳ドックの運用までは現時点では考えていません。しかし、社会的要望や病院運営上の見地から、このことも視野に入れて放射線科は活動을続けて行きたいと考えています。

追記：最近、大学病院にあるような高性能のMR装置を用いたMRAでは、MR用造影剤を使用する検査が行われるようになり、この流れは多くのMR装置に広がっていくものと思われています。

